

千葉中央JCでの思い出

浅井 笑美

わたしがこのチームに入ったきっかけは、前に母がひざが痛くて通っていた家の近くの『真砂クリニック』にわたしは付いて行っていて、その時待合室で山川コーチに会いました。そして、「何かスポーツやってるの？」と聞かれて、「やっていません」と答えたら、「千葉中央ジュニアクラブというバレーボールチームの練習があって、わたしも今から練習に行くから見に来てね」と言われました。これがわたしのチームに入ったきっかけです。

でもわたしはバレーボールはどんなスポーツなのかぜんぜん知らなくて、だから遊びでもやったこともありませんでした。

でも監督やコーチ、下学年のころは上学年のお姉さんたちに教えてもらい、そのおかげでバレーボールはどのようなスポーツで、どのようにして試合をするのか、オーバーやレシーブでどのようにボールを取るのかや、スパイクやサーブでどのように打ったりするのかを教えてもらいました。そのおかげでバレーボールはどんなスポーツなのかを知り、オーバーやアンダー、スパイクやサーブもできるようになり、練習などのおかげで、一つのことに集中して取り組むということもできるようになりました。

他にも、いつもの練習の時、遠征の時、宿泊遠征の時、合宿の時に、自分の必要なものを自分で準備したりするということで、自分から自分で身じたくをすることなどができるようになりました。

他にも、わたしは運動がきらいで、あまり運動をしていなかったのを、バレーボールを始めて毎日運動をするようになったので、運動が楽しいと感ずることができるようになり、はかにも少しずつだけ体重がへり、やせることができました。

他にも、わたしはあまり友達を作ることが得意ではないけど、クラブに入ってからたくさん友達をつくれるようになりました。

でも入って何カ月かしてから、山川コーチがこわくて練習にいきたくないといって、車で泣いて六年生のお姉さんに呼びにきてもらったりして迷惑をかけてしまったりしました。そのことは今になってだけ反省しています。

最後に言いたいことがあります。

在部生は練習をがんばって、中央の歴史をぬりかえられるように頑張ってください。

監督やコーチは、ただでかくて太っていたわたしを、試合に出れるほど指導してくださりありがとうございました。

お母さんやお父さんは雨がふっている時も、台風や雪の日も、練習のおくりむかえや遠征の車出しをしてくれてありがとう。